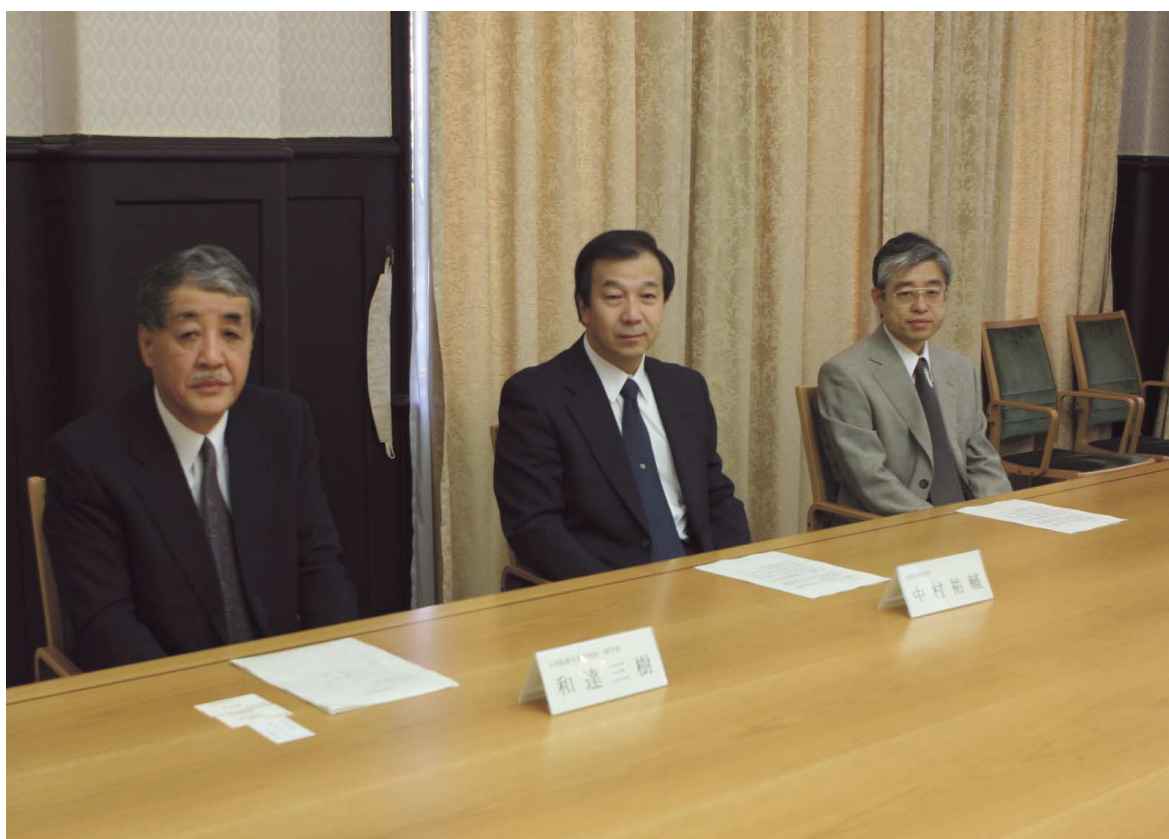




学内広報

No.1290

2004.5.12
東京大学広報委員会



春の紫綬褒章受章（2ページに関連記事）

CONTENTS

特別記事	2	研究所創立記念シンポジウム「ポストゲノム時代の蛋白質研究」、東京大学コレクションXVIII「プロバガンダ1904-1945—新聞紙・新聞誌・新聞史」展 展示のお知らせと内覧会・レセプション開催の報告、平成16年度保健センター（本郷・駒場・柏支所）の週間診療日程について
春の紫綬褒章受章		
一般ニュース	3	淡青評論「2流の研究の勤め」
安全衛生に関する講習会開催		
部局ニュース	4	
「第1回東京大学学生発明コンテスト」開催される		
掲示板	5	
第100回記念オルガン演奏会の開催、第31回医科学		

生産技術研究所 「第1回東京大学学生発明コンテスト」開催される

生産技術研究所では、3月27日（土）、「第1回東京大学学生発明コンテスト」の表彰式が行われた。このコンテストは、学生が発明や知的財産権に対する理解を深めることを目的に、生産技術研究所・産学連携委員会（委員長：畑中研一教授）と財団法人生産技術研究奨励会（TLO）の共催で企画されたもので、東京大学の学生を対象に昨年11月4日（火）から12月1日（月）まで応募を受け付けた。新規の企画であったため応募件数の多寡が予想できなかったが、最終的には全学から20件もの応募があった。応募案件は、1. 日常生活品、2. 研究から生まれた発明、3. 研究には無関係ではあるが技術的に高度な発明、の3つの分野に分け、先行技術の調査結果や新規性を考慮して書類審査を行い、10件を本審査の対象とした。

本審査は3月13日（土）に行われ、発明者の学生によるプレゼンテーションに対する質疑応答の後、発明の新規性・新鮮さ・着想や工業所有権としての価値、技術レベル、発明としての完成度などを基準に選考が行われた。本コンテストは、教育の一環であることに鑑み、発明の経済的な価値は重視せず、書類審査の過程で明らかとなった先行技術を回避するための工夫、さらには発明の経緯やアピール方法なども評価の対象とした。本審査は、大学の教官だけでなく、弁護士、弁理士、TLO職員をはじめとする知的財産を取り扱う専門家の協力のもと、最優秀賞（1件）、優秀賞（2件）、アイデア賞（3件）、奨励賞（4件）についての選考が行われた。

表彰式は、3月27日（土）13:00から生産技術研究所第一会議室において行われ、小宮山宏副学長による挨拶の後、西尾茂文所長から受賞者に対して各賞に対する表彰状、楯、副賞が贈呈された。最優秀賞は、放射線検出装置を発明した大学院工学系研究科システム量子工学専攻・博士2年の澁谷憲悟君に授与された。次ページの受賞者一覧に示すように、大学の研究に関係するものだけでなく、日常生活から生まれた「学生らしい発明」も数多く表彰された。表彰後、畑中研一審査委員長により発明に対する講評が述べられ、つづいて受賞者を代表して澁谷憲悟君が挨拶をし、記念撮影の後、記者会見および懇親会が行われた。

学部学生にはあまりなじみの無い「発明」というものを対象にしているため、今回は理科系の大学院生による応募が多かった。本コンテストは、柔軟な思考を持つ学生が、自らの発明を文書化してアピールし、かつ権利主張を行うトレーニングの機会を与える「教育プログラム」として企画されており、実施例がなくても実現可能なア

イデアのみでも応募できるため、今後は文科系理科系を問わず学部学生からの積極的な応募を期待している。また、応募された発明の中から特に優秀な発明に対しては、財団法人生産技術研究奨励会（TLO）が特許出願のサポートも行う予定である。

今回の発明コンテストは、「発明」や「特許」という取り扱いに配慮が必要なものを対象にしているため、コンテストの運営は困難が多かったが、企画の段階から、産学連携委員の教官と事務方、さらには生産技術研究奨励会の室員が一致団結した体制で準備・運営を行った。また、発明に対する評価や先行事例の調査などは、特許を扱う専門家の多大な支援を受けながら遂行された。初めての企画としては優れた発明が数多く集まり、当初の予想をはるかに越え成功裏に終わったが、将来的には「発明コンテスト」が全学的な行事に発展することを期待している。

本コンテストの詳細は発明コンテストのホームページ（<http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/>）に掲載されている。



表彰式後の集合写真

第1回東京大学学生発明コンテスト※1 受賞者一覧

賞	受賞者氏名	所属・学年・発明の名称
最優秀賞	澁谷 憲悟	大学院工学系研究科システム 量子工学専攻・博士2年 放射線検出装置
優秀賞	岡部 友彦	大学院工学系研究科建築学専攻・修士2年 スライドファスナー
優秀賞	才田 大輔	大学院工学系研究科電子工学専攻・博士1年 基板掃除機
アイデア賞	大久保 康平	大学院工学系研究科システム 量子工学専攻・修士1年 リール式ナップザック
アイデア賞	竹田 修	大学院工学系研究科材料工学専攻・博士1年 香料含浸合金 (商標名:スウィートメタル)
アイデア賞	細居 洋介	工学部材料工学科・3年 HANABI ~星降る夜をあなたに~
奨励賞	赤松 直樹	大学院工学系研究科精密機械工学専攻・修士2年 剣山型フレキシブル神経電極
奨励賞	新田 英之	大学院工学系研究科電気工学専攻・修士2年 生体分子モーターを用いたナノスケール微小空間における温度検出
奨励賞	稲垣 秀彦	教養学部理科II類・1年 ニューラルネットワークを利用した機能的siRNA配列の予測プログラム
奨励賞	白浜 公平	大学院理学系研究科天文学専攻・修士1年 回転円盤を用いた周期蛍光現象の時間分光法

※1：総応募件数20件、詳細は発明コンテストのホームページ <http://hatsumei.iis.u-tokyo.ac.jp/> をご覧ください。

大学院総合文化研究科・教養学部 教養学部 第100回記念オルガン演奏会の開催

お知らせ

教養学部では、恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催いたします。このたびは、第100回目の演奏会を記念し、バッハ・コレギウム・ジャパンを率いて国内外でご活躍なさっている鈴木雅明さんを四人の声楽家とともにお迎えし、バッハの傑作オルガン・ミサ『クラヴィーア練習曲集』第三巻からプレリュードとフーガ、およびコラールの数々をお楽しみいただきます。どうぞご期待下さい。

入場は無料です。ホームページを開設しておりますので、ぜひご覧下さい (<http://organ.c.u-tokyo.ac.jp>)。

日時：6月7日(月) 18時30分開演

場所：教養学部900番教室

曲目：J・S・バッハ オルガン・ミサ『クラヴィーア練習曲集』第3巻より

プレリュード 変ホ長調 (BWV552/1)
 キリエ、永遠の父なる神よ (BWV672)
 キリストよ、世の人すべての慰め (BWV67)
 キリエ、聖霊なる神よ (BWV674)
 いと高きには神にのみ栄光あれ (BWV675, 677)
 これぞ聖なる十戒 (BWV 679)
 われらみな一なる神を信ず (BWV681)
 天にましますわれらの父よ (BWV683)
 われらの主キリスト、ヨルダンの川に来たり (BWV685)
 深き淵より、われ汝に呼ばれる (BWV687)
 われらの救い主なるイエス・キリストよ (BWV689)
 フーガ 変ホ長調 (BWV552/2)

演奏：鈴木 雅明 (オルガン)

藤崎 美苗 (ソプラノ)

上杉 清仁 (カウンターテナー)

水越 啓 (テノール)

渡辺 祐介 (バス)

2流の研究の勧め

人の本質は変化を好まない保守性にあるのだろう。常に変化を求めて生き続けるということは多大のエネルギーを要し、ストレスである。その保守性のためか個対組織の戦いになると個人が健闘していてもそのうち組織の力にねじ伏せられてしまうというのが過去の歴史であった。

研究でもしかり。大戦前、科学の中心はヨーロッパにあり、優秀な個が独自の考えと戦略をもって科学を切り拓いてきた。しかし戦後は職業研究者が莫大な金と人手を投入して科学をするというアメリカ方式が優勢となった。どんなに優秀な個が考え、戦略をねったとしても、その考えのロジックは過去に基づく。しかし分子生物学的手法で網羅的解析を行った結果出てくるものには、全く予想できないものがある。これはロジカルに考えてでもものでもなく、人の叡知を越えている。だからおもしろい。

では個の研究者が裕福な大研究室に全く歯が立たなくなったかということと大部分はYesであるが、全てではない。大ボス率いる研究集団は一

旦走り出すと、一流という競争の自転車操業に明け暮れ、停止も、方向転換も難しい。一方、貧弱な個は栄養不良でなかなか走り出せない。しかし時間はある。個の生きる道は？まず的を絞る。ほとんどの科学は失敗の繰り返し、100中1が成功の確率。優秀とは的を絞り、失敗の回数を少なく成功の確率を高めることと言える。次に、現在だれも見向きもしない役者を、舞台の中央でスポットライトを浴びる主役に育てること。この2つに尽きる。

一流の研究は競争が激しく生き残るのが精いっぱい、なかなか超一流にはなれない。しかし2流の研究はほとんどが2流のままだが、まれに超一流に化ける。山の頂上が見えた時点で山は混みあい、競争が激しくなる。しかし1、2合目を登っている時は頂上が見えず、高さも分からず、見向きもされない。一流の雑誌に掲載されるのはほとんどが一流と称される7-8合目の論文であり、面白さが分からない又は常識的に信じ難い1-2合目の論文が載ることはない。科学はある種ギャンブル、先が見えない頃からの先行投資が必要。的を絞り2流の研究を進めよう。

(医科学研究所 竹縄忠臣)



(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1290 2004年5月12日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/jpn/index-j.html>



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO